

道知事に鈴木氏



当選を果たし万歳をする鈴木直道氏(写真中央。左から吉川貴盛氏、麻奈美夫人、右から2人目は似鳥昭雄氏。7日午後8時15分ごろ、新井拓海撮影)

16年ぶり新人対決

石川氏及ばず



発行所:十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121

選挙号外

十勝毎日新聞
未購読の方
7日間無料
お試しできます

お申し込みはお電話で
フリーダイヤル ニックリ サンキョウ
☎0120-25-3999
またはWEBで
とちしつオーケーエーピー ほんばい
www.tokachi.co.jp/hanbai/

いつでもどこでも最新の「勝海」
電子版
kachimai.jp/

北海道知事選 開票結果

8日午前0時30分現在
開票率80.71%

当 1,297,585票 鈴木直道 (38)
無・新=自民、公明、新党大地推薦

853,538票 石川知裕 (45)
無・新=立憲、国民、共産、自由、社民推薦 (敬称略)

【札幌】任期満了に伴う道知事選は7日に開票が行われ、与党が推薦する前々張市長の鈴木直道氏(38)が、無所属・新党が初当選した。野党統一候補の元衆議院議員の石川知裕氏(45)は、無所属・新党は及ばなかった。8日午前0時半現在(開票率80.71%)、鈴木氏が1,297,585票(38%)、石川氏は853,538票(45%)となった。

現職の高橋はみ氏が不出馬を表明し、16年ぶりに新人同士の対決となった。全国唯一の与野党一騎打ちとして注目を集めたが、道民は高橋氏から続き保守道政を選択した。

鈴木氏は自民、公明、新党大地の推薦を受け、経済界や農業団体などから幅広い支持を取り付けた。妻の

麻奈美さんも合わせて道内全17市町村を回り、地方重視の遊説を展開した。「あらゆるピンチをチャンスに」をキャッチフレーズに、財政再生団体の運営を担った行政経験・実績をアピールした。

夕張市長としての知名度に加え、菅義偉官房長官ら自民党や公明党の幹部が来

札幌市中央区の鈴木直道 終了の午後8時、テレビでさんの選対事務所では投票 当選確実の一報が流れる

と、詰めかけた支援者から「オー」と歓声が上がり、拍手がわき起こった。

直後、すっきりと髪の毛を切り、紺のスーツ、青のネクタイを身につけた鈴木さんが、麻奈美夫人と一緒に会場に姿を現した。後援者の似鳥昭雄会長と抱き合

鈴木氏 「活力ある未来開く」

道してテコ入れ、道内各地域で石川氏の得票を上回り、大豊田の札幌で引き離した。保守内の候補選考で、自民党の一部や経済界があつたが、最終的には組織を固め、無党派層への

浸透も進めた。石川氏は立憲民主、国民民主、共産、自由、社民の推薦を受け、連合の組織票を基盤に運動展開、「北海道の未来を切り開いていこう」と訴え、JR路線を「国債を借り、国債を返済する」という考えを打ち出した。

野党内の候補選考が混乱し出馬表明が遅れ、全道に浸透しきれなかった。道元の十勝でも、鈴木氏の得票を上回ることができなかった。

発案、鈴木氏と政策の違いを際立たせた。

自民党連選本部の吉川貴盛本部長は「多くの道民とともに北海道の新しい1ページを切り開いてくれる」とあいさつ。支援団体を代表し、日本商工連盟北海道連合会の岩田圭剛会長が「若い、新しいリーダーがわれわれもしりとりと支え、北海道の発展のために努力したい」と語った。

鈴木さんは遊説隊から花束を受け取り、当選を記念して「なるまの目入れ」を行った。(津田基彦)

石川氏 「各党支援いただき感謝」

札幌市中央区の選対事務所 道独立宣言を掲げ、カジノ誘致の是非、J-R、医師不足など争点を明確にして訴えたが、私の力不足で当選に至らなかったと語った。

今選挙戦について、「北海道

ただいたことには感謝を申し上げたいとも述べた。今後の政治活動については白紙とし、「元気の北海道をつくるため一歩道として努力したい」と話した。(伊藤亮介)



落選の報道を受け、事務所に入る石川知裕氏(7日午後8時20分ごろ、有岡志信撮影)

札幌市長に 秋元氏再選

第19回統一地方選の11道府県知事選、6政令市長選などは7日開票された。札幌市長選は秋元克広氏(63)が再選を確実にした。大阪府知事・大阪市長ダブル選は、知事選で前大阪市長の吉村洋文氏(43)、市長選で前知事の松井一郎氏(55)のいずれも維新公認候補が自民推薦候補を破り、初当選を確実にした。

村田氏が初当選



当選を果たし、支持者らと万歳をして喜ぶ村田光成氏(中央)。右から2人目は孝子夫人、同4人目が橘精三選対本部長(7日午後10時25分ごろ、金野和彦撮影)

北海道議選帯広市区 確定得票

当	26,753票	清水 拓也	(44)自民・現
当	21,742票	三津 丈夫	(73)立憲民主・現
当	16,410票	村田 光成	(51)自民・新
	11,467票	佐々木とし子	(64)共産・新

(敬称略)

道議選市区

清水氏トップで再選

自民2議席回復 三津氏7選

道議選・帯広市区(定数3)は7日に投票が行われ、清水拓也氏(44)が自民・現職が2万6753票、三津丈夫氏(73)が立憲民主・現職が2万1742票を獲得して議席を守り、村田光成氏(51)が自民・新しが1万6410票で初陣を飾った。自民党の候補が2議席を占めるのは8年ぶり。佐々木とし子氏(64)が共産・新しが1万1467票と前回より伸ばしたが、及ばなかった。

前回の道議選(2015年)は保守系候補が乱立したが、今回は自民が公認候補を2人に絞り、新党大地系の現職の山崎泉氏(45)が健康上の理由で出馬を辞退、少数派となった。2議席回復を目指す自民に対し、道知事選で共闘する野党候補が対抗する構図となった。2期目を目指した清水氏は、受け継いだ文誠一氏(元衆院議員・元道議)の地盤を核に後援会を強化し、企業中心の組織戦を展開し、労働者中心とする連合系の組織票を手堅くまとめた。道知事選との連動を強化、野

党候補が対抗する構図となった。2期目を目指した清水氏は、受け継いだ文誠一氏(元衆院議員・元道議)の地盤を核に後援会を強化し、企業中心の組織戦を展開し、労働者中心とする連合系の組織票を手堅くまとめた。道知事選との連動を強化、野

序盤は知名度不足が否めなかったが、終盤、内部的に危機感を強めて自民・公明支持層を一定程度固め、当選圏内に入った。佐々木氏は共産支持層に加え、道知事選で共闘する

投票率1・28ポイント減

56・31% 大幅低下なく

道議選・帯広市区の投票率は56・31%。7人による激戦となり、投票率を押し上げた2015年の前回選との反動で大幅低下の見通しもあつたが、1・28ポイント減にとどまった。当日有権者数は13万9378人。選挙権年齢の引き下げなどで前回より2749人増えた。男性6万5283人(127・3人増)、女性7万4095人(1476人増)。投票率は男性が55・58%(2・23ポイント減)、女性は56・96%(0・44ポイント減)だった。投票者7万8483人のうち22・3%に当たる1万7503人が期日前に投票を済ませており、当日の投票率は43・75%。投票率は清水農業センターの67・17%が最高となるなど、農学部で高かった。当日の最低は帯広小の33・02%。道知事選の帯広市内の投票率は56・9%(1・02ポイント減)。十勝出身の石川知裕氏が出馬したが伸びなかった。

村田氏「働く気持ち新たに」

帯広市西12北1の村田光成さんの事務所には、支持者約80人が集まり、開票結果を見守った。午後10時すぎに「立憲確実」の一報が入ると、歓声や拍手がわき起こった。5分後、村田さんが妻の孝子さんとともに事務所に着くと、支持者が総立ちで出迎えた。だるまに目を入れ、遊説隊員から花束を受け取った村田さんは、晴れやかな表情で、勝利を記念し、だるま

清水氏「予想以上で驚いた」

午後10時14分、大勢の支持者が集まる帯広市西4南37の事務所には、清水拓也さんが笑顔で美晴夫人と入り、受け止め、課題改善に努めた」と述べた。大谷亨道議会議長、大竹

三津氏「政策発言していく」

帯広市白樺16条西15の三津丈夫さんの事務所は午後10時すぎ、当選確実の報が



トップ当選が確定し喜ぶ清水拓也氏(中央。右は伊豆倉米郎幹事長、7日午後10時45分ごろ、塩原真撮影)



万歳で当選を祝う三津丈夫氏(右から2人目。右は恵子夫人、左から山田栄一選対委員長、米沢則寿市長、7日午後10時25分ごろ、折原徹也撮影)

他候補の当確の一報が流れると、帯広市西16南2の共産党柏台事務所は落胆の雰囲気になった。佐々木とし子さんは「安倍政権、自公直結の道政を変えてほしいとの願いが数多く寄せられた。頂いた票を重く受け止め今後につなげたい」と語った。中田勝明選対本部長は「1万を越す得票だったが知事選との連動には課題が残る。市議選、参院選につなげていきたい」と話した。(本田龍之介)

重く受け止める

佐々木氏